校長室だより

# 共学共高

第107号

令和８年11月12日発行

発行責任者
白梅学園高等学校長
武　内　　彰

## 御利益を願う伊勢神宮～関西修学旅行編2

関西修学旅行２日目は、伊勢神宮外宮（げくう）、伊勢神宮内宮（ないくう）の参拝である。午前８時に大きな荷物をトラックに積み込み、専用バスで伊勢神宮外宮を目指す。伊勢神宮には、全国の神社を参拝したのと同じ御利益があるようだ。外宮の正式な名称は、豊受大神宮（とようけだいじんぐう）で、478年に丹波の国から豊受大御神（とようけのおおみかみ）を迎えたのだという。豊受大御神は、砕けた表現を使うと、内宮に祭られている天照大御神（あまてらすおおみかみ）のお友達で、食べ物の神様だという。バスガイドさんが詳しく教えてくださる。天岩戸神話（あまのいわとしんわ）や岩戸伝説についてのお話も聴かせていただく。そういえば、イザナギノミコトやイザナミノミコトについては高校の時に倫理の授業で学んだ記憶がある。昔の人々は想像力が豊かだったことに気づかされる。

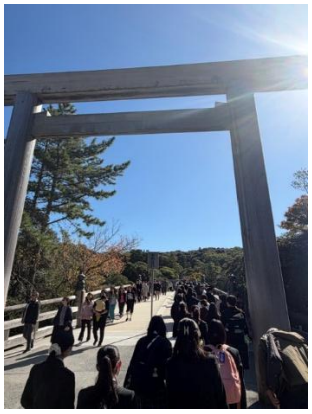
バスが外宮に着くと、班ごとに分かれて「お伊勢さん観光案内人」の方にガイドをしていただく。鳥居をくぐるときには礼をし、所々で案内人の方から詳しいお話を聴きながら歩みを進めていく。写真撮影ができない場所もあって、注意が必要だ。昨日行ったように、身を清めてから進んでいく。生徒たちも手慣れたものである。







外宮の参拝が終わると、専用バスで内宮へと移動する。移動時間は 10 分程度だ。先ほどの案内人の方も一緒にバスに乗り込んでくれている。内宮の正式名称は、皇大神宮（こうたいじんぐう）で、天照大御神が祭られている。外宮に比べて人が多い。インバウンドの方も含めて混雑している。大きな鳥居をくぐって川にかかる橋を渡り、中へと進んでいく。敷地内の木々の自然も豊かであるが、神々しい雰囲気を感じることができる。無事に参拝をして、御利益にあずかることを願う。私は、白梅生と家族の幸福、学校の発展をお願いした。














案内人の方にお礼を言って、すべての班がそろったところで、近くのお店で昼食をとる。再び松坂牛をいただくことができ、生徒たちも喜んでいる。
その後は、おかげ横丁・おはらい町を各自で散策する。昔ながらの建物が続き、趣深いがこちらも人が多く混雑している。さまざまなお土産店、飲食店、音楽イベントなどがあり、活気にあふれている。美味しそうなデザートを見つけて食している生徒もいる。私はここでお土産を購入して、宅配を依頼した。太く柔らかい麺が特徴の「伊勢うどん」も購入してみた。帰宅してから、まずはカレーうどんをいただいたが、スープが辛くて私好みであった。






散策後は、専用バスで五十鈴川駅へと向かう。駅前で少しの間、待機してから伊勢志摩ライナーに乗車して京都駅へと向かうのである。ここでちょっとしたトラブルがあり、私たちはホーム上を全力でダッシュすることになるのだが、これも良き思い出になるであろう。（乗車直後の車内写真を参考に）詳しくは関西コースの生徒にお尋ねください。2 時間ほど揺られ、生徒たちは疲れをいやしている様子だ。







（乗車直後の車内写真）

京都駅から宿までは専用バスでの移動となる。15 分ほどすると、到着である。夕食は京懐石をいただく。毎回、「いただきます」の前に代表生徒が一言メッセージを送るのが良い。室長ミーティングで健康状態や翌日の確認等をして、22 時 45 分に消灯である。（つづく）







（共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）